

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	職員間で、理念について共有し、実践に向けて取り組んでいく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近くのスーパーへ買い物に行く時、地域の住民へ挨拶をしているが、今後も気楽に声をかけ合うように支援していく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後も継続し、色々な地域の催し物があるときは、参加し、交流を図っていくようにする。

グループホーム武岡ハイランド

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者や家族より相談を受けている。	○	今後、地域に向けてのグループホームだよりを発行する事について検討を行っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義について理解し、評価の結果に対し改善に努め、取り組んでいる。	○	定期的に見直しを行い、より良い介護へ改善するように職員間で認識していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、要望や意見をスタッフへ報告し、サービスの向上に生かすよう取り組んでいる。	○	料金内容についての記載が理解しづらいとの意見があり、新たに見やすい内容のものを作成し、他事業所へ配布した。今後、新しいパンフレットの作成を計画している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護担当者や地域包括支援センター職員と情報交換を行いながら、利用者の質の向上に取り組んでいる。	○	今後も定期的に情報交換を行いながら、サービスの向上に努めていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	定期的に現任研修を受け、利用者の家族に必要時情報を提供している。	○	職員への勉強会を行い、活用できるようにしていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に現任研修を受けており、内容をスタッフへ伝え、虐待防止についてスタッフ間で共有し情報交換を行い、常に虐待が行われていないか注意し、防止に努めている。	○	今後も、継続的に研修会に参加し、定期的に職員間での事例検討会などを行い、取り組んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時は、必ず利用者や家族と面談して不安や要望を尋ね、十分な説明を行い、了承を頂いている。退所の際は、定期的に利用者の状態について情報交換を行い、理解・納得を図っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も家族の不安解消のため、十分な説明を行い、理解・納得を図っていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>随時、利用者に対し、不満や要望がないか聞いている。又、毎年、市から相談員が来訪し、利用者の意見など表せる機会を設けている。</p>	<p>○</p> <p>利用者が思いを遠慮なく話せる環境作りを行っていく。又、継続して相談員への意見を運営に取り入れ、改善していくように努めていく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的、必要時、又は面会に来られたときに、日々の状態や、金銭管理について説明や報告をしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も状況に応じ、家族への報告を行っていく</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的にご家族へ連絡し、状態や要望などを聞いている。また、苦情についての窓口を設置し、投書箱などを設け、運営に反映している。</p>	<p>○</p> <p>今後、ご家族へ、定期的に要望・苦情についてのアンケートを行い、業務や質の改善を図っていく予定である。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的、必要時、職員の意見を聞いている。又、ワーカー会議時に意見や提案を聞くようにしており、業務に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>随時、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させていく。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>できるだけ、利用者や家族の要望に添えるように、努めている。</p>	<p>○</p> <p>家族の要望に出来るだけ添えるように勤務の調整を行っていく。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者への説明を行い、不安感を解消するように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	職員全員が、介護福祉士の資格取得を目指していくよう取り組んでいく。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	連絡会への加入を検討し、他のグループホームの見学や交流をもつ事で質の向上を図っていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	○	本人が、遠慮なくなんでも話せる環境を作り、信頼関係が築けるように支援していく。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	○	家族が遠慮なくなんでも話せる環境を作り、信頼関係を築いていけるよう努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの検討、手続き、依頼などの代行を行いながら、「その時」必要な支援の対応に努めている。	○	本人と家族が、求めているサービスを見極め、必要な支援が対応できるように取り組んでいく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に家族、本人で見学、説明を受け、安心しての入所になるよう努めている。家族の都合で、入所前に本人の同意が得られない場合は、定期的カンファレンスを持ち、本人の意向にできるだけ添うように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、洗濯や裏の畑を利用しての野菜作りなど、本人と学び合いながら一緒に喜怒哀楽を共に過ごしている。	○	家族のような関係を築けるように取り組んでいく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的必要時連絡を取り、一緒に本人を支えていく関係を築くよう努めている。家族の援助(精神面な部分)が必要な場合は連絡して面会を依頼し、共に支える関係を築いている。	○	本人を家族と職員とで、支えていく関係を築くように取り組んでいく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所時にアセスメントを的確に行うように努め、又、定期的に把握し情報交換しながら良い関係が築いていけるように支援している。できるだけ、家族の役割として通院を依頼している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、手紙や電話連絡など、家族と情報交換しながら、本人の意思を尊重し、自由にできるよう支援している。	○	法人内のサービスを利用しながら馴染みの場所への関係が途切れないように支援している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホール内の席を定期的に変え、いろいろな方との関わりが出来るようにしている。性格上関係が築きにくい場合は、スタッフが中に入り交流がスムーズに行くよう支援している。自由に好きな場所で談話や家事ができるように支援している。	○	利用者同士が、助け合い、良い関係を築けるように取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院退所の場合、定期的に面会し状態把握に努め、利用者、家族、主治医との連携を継続し、必要時、情報交換を行っている。	○	継続的に情報交換しながら、関係を断ち切らないよう関わりをもっていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を引き出しながら、出来るだけ本人の意向に添った支援に努めている。	○	出来るだけ、自分らしい生活を目指した支援に取り組んでいく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前アセスメント、その後の関わりで得た情報をスタッフ間で共有し、把握に努めている。	○	今後、センター方式を使いながらアセスメントしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフ間で、その日の過ごし方、状態を記録し、引継ぎ時に報告し又、毎月のワーカー会議で、確認し合い把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的、必要時家族や他サービス事業者とのカンファレンスや情報交換を行い、それぞれの意見や要望を介護計画に反映したものを作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的、必要時家族や他サービス事業者とのカンファレンスや情報交換を電話、面会時に行い、それぞれの意見や要望を介護計画に反映したものを作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間で、個別にその日の過ごし方、状態を記録し、引継ぎ時に報告し毎月のワーカー会議で、確認し合い把握に努めている。又、新たな課題が発生した場合は、見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスのお風呂を利用して温泉風呂などを実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎年の防災訓練やオムツ申請時又、敬老会など消防、民生委員やボランティアなどと協力しながら支援している。	○	ボランティアを利用して、相手や裁縫など一緒に出来る時間を作っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ニーズに応じ、法人内のヘルパー事業所による支援や他事業所の福祉用具担当者への手続きの代行など、柔軟な支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時、地域包括支援センターへ依頼している。	○	今後、地域包括支援センターと密に連絡を取り合い、運営推進会議への職員の参加の依頼をしていく。又、本人の希望に添えるように援助に活用していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を取り入れ、在宅医を継続して往診、受診できるように支援している。		

グループホーム武岡ハイランド

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事業所で定めてある協力機関の精神科病院や家族の希望する専門医の往診を受けられるようにしている。	○	今後も認知症の専門医(精神科医師)との連携を図りながら、状況に応じ相談し、関わりを持っていけるように取り組んでいく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと医療連携(24時間)を図り、定期的(週1回)に健康管理を依頼している。又、毎日の健康チェック時の異常時や必要時は随時相談できる体制を整えている。又、緊急時など隣接事業所でもあり早急な医療活用の支援が可能である。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に利用者へ面会し、状態観察を行い励ましている。又、家族や医師と今後について話し合い、情報交換に努めている。ホームでの生活が可能な場合には早急に受け入れ、必要時には訪問看護ステーションと連携をとり医療処置を行いホームでの生活が続けられるように体制を作っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時又は状況に応じ、終末期のあり方について話し合いを行っているが、一部の家族とはまだ話し合っていない。	○	状況に応じ、家族と話し合う機会を作り、方針を共有できるように取り組んでいく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	スタッフへは今後、終末期への支援が必要となる事についての説明は行っているが、現時点では対象者がいないため行っていない。	○	今後、ターミナルケアに向けて、ご家族、訪問看護師や主治医と連携を図りながら情報交換していく。又、終末期の対応について職員間での勉強会を行っていく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所時より必要性の高い利用者の場合は、定期的に家族に状態を説明し、受け入れ施設側と連携を図り、情報交換しながら住み替えによるダメージを防ぐように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけないようスタッフの声かけや対応には十分注意を行いながら支援している。プライバシーの確保として、家族とは個人情報に関する契約を交わしている。又、記録物は鍵のかかる棚に保管している。	○ 利用者のプライバシーを尊重するよう、職員一同取り組んでいく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意志や思いを尊重し、状態に応じた支援を行い、自分で決めたり納得しながら生活出来るように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別の希望に出来るだけ添って、日々の生活が過ごせるように支援している。散歩や近くのスーパーへ可能な限り出掛けしている。	○ 利用者の自分らしい生活を目指した支援に取り組んでいく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望者は、化粧品を用意し、髪染めなど希望に応じて、スタッフが行っている。又、行き付けの美容院へ行けるように支援している。	○ 可能な家族には、支援を依頼しながら、利用者のその人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、スタッフと共に談話を楽しみながら、食事の準備、食事、片付けを行っており、利用者の能力別に応じた声かけ、見守りなどの支援を行っている。	○ 利用者の能力に応じ、今以上に調理を一緒に作っていき関わりを作っていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎朝の梅干、毎日のビールなど今までの生活習慣を取り入れている。好きな時にお茶など飲めるようにしている。	○ 手作りの梅酒などを作り、楽しみのある日々が送れるように支援していく。

グループホーム武岡ハイランド

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、利用者の排泄パターンに応じたトイレ誘導を行う工夫をしている。定期的にオムツ利用の見直しを行い、必要時に使用するよう支援している。	○	出来る利用者に対して、出来るだけオムツの使用を減らしていけるよう取り組んでいく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な流れは決めているが、希望者にはその都度対応し、入りたい時間が言えるような声かけを心がけている。	○	今後も出来るだけ、本人の希望に添った時間で、ゆったりと入れるように支援していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の希望や状態に応じ居室の空調を整え、いつでも好きな時間に気持ちよく休息したり眠れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に家族よりアセスメントを十分に行い、スタッフへ情報交換しながら、趣味や生活歴を参考に家事やレクの提供を行っている。又、入居前の行きつけのデパートなどへの買い物に生けるように支援している。	○	今後も利用者の希望に添った支援ができるように、利用者の背景に目を向けて、関わっていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ、家族へ説明、理解の下本人が管理している。	○	買い物時、利用者の能力に応じ、職員と共に出来るだけ支払いをして頂くように支援していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴天時は毎日散歩を計画し、洗濯物干しや取り入れ、裏庭の畑仕事など、毎日外に出るようにしている。出来る範囲で、利用者の希望に応じられるよう努めている。出来ない場合は、家族へ依頼し、希望に添えるように支援している。	○	出来る限り、一人ひとりの希望にそって関わりがもてるように支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月、利用者の希望を参考にお花見、動物園、水族館、運動会、校区文化祭、外食などに外出している。家族と共に外出できる機会を今後も行っていく。	○	可能な限り、利用者の希望を聞きながら、苑外レクリエーションに計画していき、普段行けない場所への支援をしていく。又、家族へ依頼していく。(お墓参り・生まれ故郷への帰郷)

グループホーム武岡ハイランド

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時いつでも家族や友人へ電話連絡ができるようにしている。自由に手紙を書けるようにしている。毎年、手作りの年賀状や暑中見舞いなどの支援も行っている。	○	今後も家族や大切な人との連絡が図れるように、定期的、必要時支援していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時、居室でプライベートを守り、ゆっくりと居心地よく過ごせるように、お茶などの提供を行っている。	○	いつでも気楽に訪問できるような環境づくりや職員の対応に取り組んでいく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアに対し、熟知しており、しないケアに取り組んでいる。	○	今後も、定期的に勉強会を開き、拘束しないケアに取り組んでいく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が鍵をかけることの弊害を理解している。しかし、建物の周りの環境による事故防止のため、安全を確保できる時間において開放するように努めている。	○	状況に応じ、見守りが常時出来る場合は、勝手口は、殆どの時間において開放していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ間で常に利用者のその日の認知状態について情報交換し、共有しながら、安全面に配慮して支援している。夜間も定期的、必要時巡視を行い、安全確認を行っている。	○	事故防止のため、スタッフ間で情報交換を徹底して、利用者の所在や状態の確認を行っていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の個性に応じ、危険物の管理をしている。洗剤類などは安全が保てる倉庫に管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成し、スタッフ全員に配布し又、常に見れるところに掲示している。定期的に勉強会を行い、スタッフ間で情報の共有を図り、事故防止に取り組んでいる。	○	定期的に勉強会を行うと共に、ヒヤリ・ハットや事故報告書の見直しを行い、事故防止に取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に勉強会を行い、スタッフ全員が緊急時の対応ができるように訓練を行っている。	○	今後も継続的に毎年消防隊・看護師による心肺蘇生法や緊急時の対応法を学んでいく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年防火訓練を行っている。施設内では新スタッフが入る毎に訓練を行っている。地元の救急隊の訓練により、情報交換を行っている。	○	法人内の事業所職員に協力が得られるように働きかけている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時のアセスメントより考えられるリスクについて家族とカンファレンスを持ち、話し合っている。又、定期的、必要時に家族に連絡し、状態の説明を行っている。	○	リスクについて、適時家族に説明し、理解を得る努力をしている。又、今後も継続していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、健康チェックを行い、異常時は訪看へ報告し受診の有無の確認及び家族へ状態の説明を行い、受診支援を依頼、又受診支援など行っている。	○	日頃の状態を把握して、異常の早期発見時は、職員間で情報を共有し、訪看、主治医へ対応確認を行うように取り組んでいる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に薬についての説明を行い、常に確認できるところに掲示している。又、内容の変更時は引継ぎ帳に記入し確認印を押し、スタッフ間で、確実に共有するようにしている。	○	職員各自が利用者の薬について確実に認識できるように随時情報を伝え、又、定期的に勉強会を開いていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のための運動、マッサージ、食事療法、水分摂取への声かけを行っている。	○	職員各自が便秘について認識し、対応策ができるように定期的に勉強会や情報を伝えていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内ケアについての勉強会を実施し、必要性を熟知しており、毎食後の利用者の能力に応じた支援を徹底している。又、就寝前の義歯の洗浄を行っている。	○	職員各自が口腔ケアについての知識を熟知するように定期的に勉強会や情報を伝えていく。

グループホーム武岡ハイランド

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の献立内容を事前に栄養士が確認し、アドバイスを受けている。偏食者へは、別メニューを提供し、利用者の状態に応じ、適時、栄養士、看護師の指導を受けており、一人ひとりの身体の状態や習慣、好みに応じた支援をしている。	○	利用者の状態に応じたケアの取り組みができるように支援していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の対応法のマニュアルを作成しており、定期的にスタッフへ伝達し、把握している。玄関に、手指の洗浄器を設置しており、来訪者への協力を依頼している。	○	感染症についての勉強会や情報を配布し、職員各自が熟知できるように取り組んでいく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	スタッフの手洗いの励行、食前の手指消毒剤を使用している。又、夜間の調理道具の消毒、毎日注文先より新鮮な食材の調達、賞味期限についてもスタッフ間で情報交換しながら徹底している。又、衛生を保つよう漂白、消毒液、乾燥機を使用している。	○	食中毒に対しての勉強会を行い、職員各自が自覚し、徹底した衛生管理が行えるように努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りに草花や植木を置き、玄関には、利用者の生けた生花や作品が展示しており、親しみやすい雰囲気を作っている。	○	玄関回りの草花が、常にきれいな状態であるように、又、親しみの持てる小物などの工夫を行い、安心して出入りできるよう取り組んでいく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や絵画を飾り、又、皆で作成した作品を掲示している。利用者の好みの曲を適時流し、快適な環境の中で過ごしている。時折、アロマセラピーも行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者本意に自由に日々を過ごしている。居室内や好きなリビングの場所でゆっくり新聞や読書をされたり、気の合った利用者同士お茶や談話を楽しめる空間を提供している。	○	利用者が家庭に居るような気持ちで生活が出来るように居場所の工夫をしていく。

グループホーム武岡ハイランド

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、危なくないもので使い慣れたものや必要な家具を持参して頂いている。	○	今後も家族と協力しながら、出来るだけ住み慣れたものや好みのものを持参してもらい、居心地良く過ごせるように取り組んでいきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室は毎朝換気を行うと共に定期的に空調の調整を行っている。利用者の状態やその日の状況に応じ、加湿器や消臭剤などの対応をしている。時にアロマを使用している。	○	常に快適な環境作りに留意し、調整していく。又、アロマやお香など状況に応じて使用していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室・ホールの段差解消、居室の出入り箇所・トイレ・浴室に手すりの設置、浴槽や洗い場の滑り止めマット・シャワー椅子の設置を行っている。シャワー椅子など一人ひとりの状態に応じ、使い分けている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の認知状態に応じ、声かけ・見守り・一部介助を行い、自立支援への方向で、自尊心を傷つけないよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周囲に花や植木を置き、水まきや草取りを日常的に行い、楽しんでいる。裏庭にベンチを設置し、他者との交流の場や散歩などの休憩に利用している。	○	今後、スロープや階段をリハビリに活用していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員自ら入りたい、又、家族、友人、知人に自信をもって勧めたいグループホームを目指して、スタッフ一同取り組んでいます。

利用者の思いに出来るだけ添うように支援し、職員と利用者が家族のように喜怒哀楽を分かち合い、過ごしている毎月、季節に合わせた壁画や小物の作品作り、隣接のデイサービスの温泉浴又、裏庭での畑仕事を共にやり、収穫した野菜を調理しながら、楽しくゆったりとした日々を過ごしています。

又、軽体操や脳活性のレクなどの提供を行い、身体や認知能力の低下を防止するように支援しています。